

## 英語科

# リーディングからスピーキングへつなげる授業

—協働学習が生徒に与える影響を中心に—

幸 建 志

## A Study on Lessons Integrating Reading with Speaking -Focused on the Effects of Collaborative Learning-

Kenji Yuki

The purpose of this study is to understand the influence of pair or group work in reading activities and speaking activities among students by conducting questionnaire, and to discuss the effect. In English education, it is strongly emphasized the importance of fostering the ability to think, make decisions and express and that of integrating four skills in teaching practice. The teaching practice followed these components, and the researcher put reading activities throughout the lessons and had students give a speech as the final activity. While they were studying, the author had them work in pairs, and the effect was examined by the questionnaire. As a result, many students liked working interactively for reading comprehension and for preparing for and exhibiting a speech. However, there were some answers implied to be improved. (pp.215-220)

### 1 研究の目的

本研究の目的は、教科書のリーディング教材を用いたリーディング活動からスピーキング活動（本単元ではスピーチ）へつなげる授業をグループやペアで行うとき、その過程で生徒自身が考える学習の効果とはどのようなものなのかをアンケートによって振り返り、その結果を分析し、同様の授業方法の効果を検証することである。

### 2 研究の方法

学習指導要領においては、思考力・判断力・表現力の育成や4技能を統合的に育成する指導が重要視され、なかでも、「話すこと」には、「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」や「与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。」<sup>1)</sup>といった項目がある。

本単元においても、学習指導要領のそのような

視点をもとに授業を構成し、スピーチを単元の最終目標とし、それに向けたリーディング活動を試みた。その中で、学習形態としてグループ活動やペア活動を取り入れ、その効果を生徒のアンケートを分析することによって検証した。

#### (1) 対象生徒

中学3年生の2クラス(男子35名、女子40名)を対象とした。

#### (2) 実施時期

2016年(平成28年)11月中旬から12月上旬にかけておこなった。

#### (3) 使用単元

教科書 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 の PROGRAM 9 Malala's Story: Education First を使用した。この単元は、2013年7月12日に国際連合ですべての子どもに教育を求めてスピーチをしたパキスタンの女子生徒、マララ・ユスフザイさんに関する話である。彼女を取り巻く状況や彼女の将来の夢、また、国連で行った演説等を読み進めな

がら、当時のパキスタンの情勢や子どもたちを取り巻く教育の現状等を知り、教育の重要性、男女平等な社会等を考えながら、自分たちにできることを考え、表現するとともに、世界の平和と発展を希求する態度を養うことができる。

#### (4) 生徒観

生徒たちは中学2年生で沖縄へ修学旅行に行き、今年度中学3年生では、当校の新領域の教科である「希望」での学習において、アメリカの先生方に広島平和記念公園内のさまざまな碑を案内したり平和についての意見交流をしたり、国語や社会でも戦争、原爆、平和に関することを学んだりしてきている。ただし、さまざまな問題に対して考えることができるようになってきているが、それを英語で表現することについては困難を感じている生徒もいるので、自分の考えを英語で表現する過程を丁寧に指導し、英語による表現力を育むことを目指した。

#### (5) 授業の概要

自分たちで学習を進める機会を多く持つように進めた。例えば、主人公についてどのような人物であるのかを調べクラスで共有することで彼女に対する関心を深めることができるようにしたり、本文の内容理解では、疑問に思うことを取り上げたりした。また、教科書で扱われている本文に加えて、主人公が国際連合でおこなった実際の演説の映像を見たり、ペアで内容理解に取り組んだり、本文や演説を読んだ後の感想を英語で述べあったり、平和に対する考えを主人公への手紙を書くという形で発表するように授業を構成した。

#### (6) 授業構成

授業構成は次のとおりである。

- 第1次 主人公に関する情報共有と本文の内容理解（3時間）
- 第2次 主人公が国際連合でおこなった演説の視聴とその内容理解（1時間）
- 第3次 ペアで感想や意見を主人公に宛てた手紙形式で書く（2時間）
- 第4次 グループでの練習（1時間）
- 第5次 発表（2時間）

#### (7) 授業の詳細

##### 第1次（1時間目）

この単元に入るまでに、主人公であるマララ・ユサフザイに関する情報を自分で調べてくることを課題とし、それを用いてこの単元に入る導入とした。ワークシートにより、下のような指示をしていた。

(1) Collect some information about Malala Yousafzai by reading some books or searching the Internet, etc. and write it down on this worksheet.

(本やインターネット等でマララ・ユサフザイについての情報を集め、ワークシートに記入しなさい。)

授業ではワークシートの次の課題を用いた。

(2) Talk with your partner or friends around you about Malala Yousafzai and share the information with them. Write down some new information you've got from them.

(周囲の人とマララ・ユサフザイについて話し合い情報を共有しなさい。また、他の人から得た情報を書き加えなさい。)

自分が調べてきた情報を周囲の生徒と共有し、自分が知らなかった情報については、自分のワークシートに書き加えることにした。その後、調べてきた情報を自主的に黒板に書くようにながし、あるクラスでは図1のような板書となった。

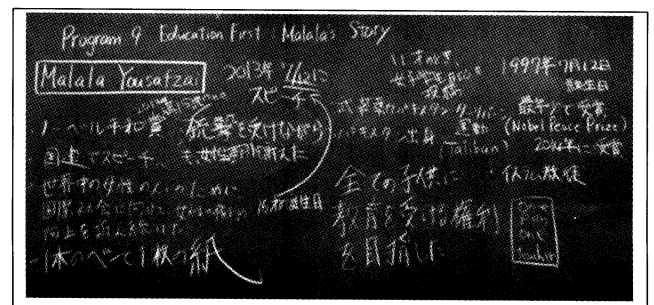


図1 マララについて生徒が書いた板書

生徒が調べてきた内容は次のようなものだった。

- ・パキスタン出身。1997年7月12日誕生。
- ・11歳の時に女子学生日記を投稿。
- ・2012年、15歳の時に銃撃を受けながらも女性への差別を訴えた。
- ・2013年7月12日の誕生日に国連でスピーチ。
- ・2014年に最年少でノーベル平和賞を受賞。
- ・世界中の女性のために国際社会に女性の権利の向上を訴えた。
- ・全ての子供に教育を受ける権利を目指した。

その後、Part 1について英問英答をおこなった。

- (1) When and where did Malala give a speech?
- (2) What did Malala speak for at the U.N.?
- (3) What did the U.N. call the day of her speech?
- (4) When and where was she shot by a gunman?
- (5) Where was she taken to after she was shot?

最後に、本時の内容を踏まえ疑問に思うことを発表するようにながしたところ、下のような疑問が出てきた。

- ・ Why was she shot?
- ・ Why was she taken to another hospital in the UK?
- ・ Why did she speak for the right of education for every child?
- ・ Why did she keep her action after she was shot?

生徒の振り返りには次のようなものがあつた。

- ・ マララさんがスピーチをするまでの過程が知りたいです。
- ・ 銃で撃たれた後にスピーチをしたことを知った。これによって世界の教育が変わってほしいと思う。パキスタンのことをもっと知りたい。
- ・ マララさんが命をかけて行った教育を広める活動はどのようなもので、どのような背景があつたかを知ることができるようにしたいです。当時の心境をきいてみたい。

## 第1次（2時間目）

Part 2～Part 3での内容理解の発問は次の通り。

### Comprehension 1

#### Part 2

- (1) Who agreed to the request of the BBC?
- (2) How did Malala appear on the BBC website?
- (3-1) How was life in her town?
- (3-2) Give an example of the life.

→Can you imagine the life without watching TV or listening music?

#### Part 3

- (1) Malala wanted to become a doctor, but could girls choose jobs freely?
- (2) Why did she want to become a politician?

### Comprehension 2

#### Part 2

- (1) “Gul Makai” isn’t her real name, but why did she use it?

#### Part 3

- (1) What influence did she want to have on her country?

この授業での生徒の振り返りには次のようなものがあつた。

- ・ この授業で、彼女がなぜ夢が医師から政治家に変わったのかということと、彼女がスピーチで話したような内容ともつながっていると思いました。
- ・ Part 1ではわからなかった疑問点が少しわかった。Part 2, 3を読むことで、マララさんがどのような状況に置かれていたのかがおおまかにわかった。
- ・ グル・マカイという名にどういう意味が込められているのか知りたい。

疑問に思っていたことが少しずつ分かってきたり、依然としてわからないままだったり、新たに疑問に思うことが出てきたりと生徒が教材の内容と向かい合っている様子が伺える。

## 第1次（3時間目）

Part 4 での内容理解の発問は次の通りである。

- (1) When is Malala Day?
- (2) How did people feel when they listened to Malala's speech at the U.N.?
- (3-1) "The pen is mightier than the sword." Put it into Japanese.
- (3-2) 「ペンは剣よりも強し」とはどういう意味か。
- (4-1) "Let us pick up our books and pens." Put it into Japanese.
- (4-2) 「本とペンを手に取りましょう」の「本やペン」は何を意味しているか。

この授業での生徒の振り返りには次のようなものがあった。

- ・マララさんがスピーチで使った言葉はシンプルだけど、深い意味が込められていてすごいと思いました。実際に行動してきたマララさんの言葉だから力があり多くの人々の心に響くのだと思います。教育を受けることがあたりまえの環境であることに感謝しなくてはと思いました。
- ・マララさんのスピーチには簡単な単語が出てくるけど、Let's を Let us にしたり、one を使ってたった一つの〜で世界は変えられるんだという強いメッセージになっているのだと思いました。これからもこの言葉が伝えられていって、マララさんが願っているような、みんなが平等に教育を受けられて、それによって戦争もなくなったらいいと思います。
- ・本当に今、マララさんが命がけで語った思いは世界に届いているのか、今実現しているのか知りたいです。

振り返りから、ほとんどの生徒が、マララの行動とスピーチの言葉のつながりが見えてきたことが伺える。また、感想だけでなく、自分の意見を持つ生徒も見えてきた。

第2次（主人公が国際連合でおこなった演説の視聴とその内容理解）

マララが国連で行ったスピーチの映像を視聴した。その後、スピーチの英語と日本語訳を数カ所空欄にしたワークシートを配布し、抜いた日本語訳の部分を周囲の人と相談しながら完成する活動をおこなった。スピーチをする様子を見ることで、言葉の内容だけでなく、その話し方にも注目させた。また、教科書には載っていなかった内容についても触れ、内容理解をより深めることができた。

第3次（ペアで感想や意見を主人公に宛てた手紙形式で書く（2時間）

#### 1) ペアづくり

今年度7月に当校の新領域の教科である「希望」での「ピースプロジェクト」において、アメリカの先生方に広島平和記念公園内の碑を案内したり平和についての意見交流をしたりする際に作った男女2名ずつの4名グループを作った。そして本単元においてもこのグループを基本にした男子2名、女子2名のペアでおこなった。これは英語の学力も考慮し、グループ間での英語の学力差が小さくなるように配慮していたことと、平和に関するテーマなのでお互いに話しやすいであろうという判断のもとで行った。

#### 2) 手紙作成について

これまでの授業を踏まえ、今、マララさんに手紙を書くとしたら、どのようなことを書くかをペアでまとめ、書いた後はペアで発表することを伝えた。教科書 Part 1～4 で書いた振り返りも参考にするように促した。考えるヒントとして次のことを示した。

- ①文章を読んだり、国連でのスピーチを聞いたりして、初めて知った事実や驚いたこと。
- ②Malalaさんの言葉や行動の中からあなたが感動したことや考えたこと。Malalaさんへ伝えたい思い。
- ③今日までに（特に中学生になって）平和に関して学習したこと、体験したこと、そのとき（その後）考えたこと。ピースプロジェクト

なども振り返ってみましょう。

④Malala さんへの質問。

⑤中学校を卒業していくにあたって、平和な世界にしていくために自分たちができること、しようと思うこと。

⑥「私たちは平和とは\_\_\_\_\_だと思います、なぜなら~だからです。

(e.g.) We think that peace is \_ because ~.

英語の表現として示したいいくつかの例をあげる。

- In my English class, we learned that ~ for the first time.
- I was deeply moved by ~. (~に深く感動しました)
- I was deeply shocked to learn that ~ (~ということを知ってとてもショックでした)
- I'd like to tell you that ~ (~ということをあなたに伝えたい)
- I have learned a lot about ~ since I entered the junior high school. (中学校入学以来、~について多く学んできました)
- I'd like to (do) ~ from now. / in the future. (今後/将来~したいと思います)

#### 第4次 (グループでの発表練習)

手紙の原稿の仕上げがこの時間までかかったペアもあったが、発表前にプレゼンテーションの際に気を付けることを復習した。「大きい声で」、「明瞭に」、「速くならないように」といったことや「顔をあげて」、「アイコンタクト」といったことを意識して練習するようにし、教師に聞いてほしいペアは廊下で聞いて気づきを伝えた。

#### 第5次 (発表)

最初にプレゼンテーションの際に気を付けることを復習したのち、4人グループ内で1ペアずつ発表直前の練習をし、気づきを伝えあった。

その後、自主的に発表するペアを募り、2ペアが発表した後、「とてもよく練習していてよいが不十分である」ことを伝えた。教室は一瞬静まりかえったが、本時の目標を提示した。

Today's aim = To make your speech better

発表をより分かりやすくするためにはどうすればよいかを、国連でのスピーチを思い出すようにながしたところ、次のような発言が出た。

- 伝えたいところを力強く。
- 言いたい箇所の前後に間を置く。

そこで、自分たちの原稿に力強く言うところと間を入れるところに印を入れ、再度ペアで練習し発表することにした。聞く生徒は発表を聞きながら評価用紙に「最も言いたかったと思われる内容」と「スピーチとして良かった点 (声量, 発音の明瞭さ, アイコンタクト, 強調, 間など) を記入していった。全ペアとも2時間かけて自主的に発表することができた。

最後にアンケートを行った。自己評価は下の5つの項目について5 (とてもよくできた), 4 (よくできた), 3 (どちらともいえない), 2 (あまりできなかった), 1 (ほとんどできなかった) の番号に○を付ける方法でおこなった。

- ①間違えることを恐れず積極的にスピーチすることができた。
- ②ペアでお互いに考えを出しながら、本文の内容理解をしたり、手紙の原稿を書いたりすることができた。
- ③ペアでお互いに考えを出しながら、聞き手にわかりやすいスピーチにするために工夫することができた。
- ④教科書本文の読解や映像を視聴することで自分たちとは異なる社会についての理解が深まった。
- ⑤平和な世界について考えたり、それを実現するためにどのようにすればよいかについて考えたり表現したりすることができた。

自由記述の質問は次の項目である。

ペアやグループで英語を学習することについて、よかったと考えることや難しかったと考えることについて自由に記述してください。  
「よかったと考えること、またその理由」  
「難しかったと考えること、またその理由」

### 3 結果と考察

自己評価については次のような結果であった。  
(回答数は 75 名)

表 1 自己評価集計結果

	5	4	3	2	1
①	49	16	10	0	0
②	52	16	5	2	0
③	47	22	5	0	1
④	50	23	2	0	0
⑤	50	20	5	0	0

また、自由記述では次のような回答があった。

◆「よかったと考えること、またその理由」

- ・自分の思っていることがうまく英語で言えなかったりうまく文を作ることができなかったりしたけど、ペアの人が作ってくれたり、うまく文を付け加えたりしてくれた。
- ・お互いの意見が同じでも違っていても考えの共有ができ自分の考えをさらに深めることができること。
- ・ペアですることでお互いに自分の意見を表現するために声を大きくするなど自分たちなりの工夫をすることができたので良かった。
- ・発音や間などを聞いてもらうことで客観的に指摘してもらうことができること。
- ・自分では思いつかないような文章が書けたり、長い文章が話せたりと 1 人ではできないことができたこと。

◆「難しかったと考えること、またその理由」

- ・自分の思いや考えを聞き手に伝わるように英文にするのが難しかった。英文は作ろうと思えばいくらでも作れると思うけれど、なるべく既習の単語を使い伝えることがとても蒸すかしいと感じた。
- ・自分の一番伝えたいことを伝えることが難しかった。なぜなら強調したと思っても上手く伝えることができていなかったから。

- ・よりよくするためにどこを強調するのか、どこに間を入れるのかが難しかった。理由はテンポよくするために間を入れすぎるのはいけないから、そのバランスを考えるのが大変だったから。アンケート結果から、8割強の生徒が「とてもよくできた」、「よくできた」と回答した。しかし1割くらいの生徒はグループやペアで学習したとしてもあまりよい回答をしていない。そのような回答をした生徒も見てみると、どちらかという英語の力があまり身につけていない生徒が多く、ペアやグループで学習することで得られる効果は大きくないので、普段から別の方法で英語力をつける必要があるとも言える。

### 4 結論と今後の課題

本研究の結果、リーディング活動からスピーキング活動へつなげる授業をグループやペアで行うとき、ほとんどの生徒が学習の効果があつたと捉えていることが検証できた。

一方、ペアやグループで学習し何か一つのものにまとめていくことは、大変な困難も併せ持つこともあるので、そのような問題に対して、どのような解決方法があるのかを具体的に考えていくこと、また、英語力があまり身につけていない生徒への対応についての具体的方法を考え実践していくことが今後の課題である。

#### <引用文献>

- 1) 文部科学省 中学校学習指導要領 第 9 節外国語 pp. 105-111, 2008

#### <参考文献>

- 2) 平田和人：「中学校新学習指導要領の展開」, 2008, 明治図書.